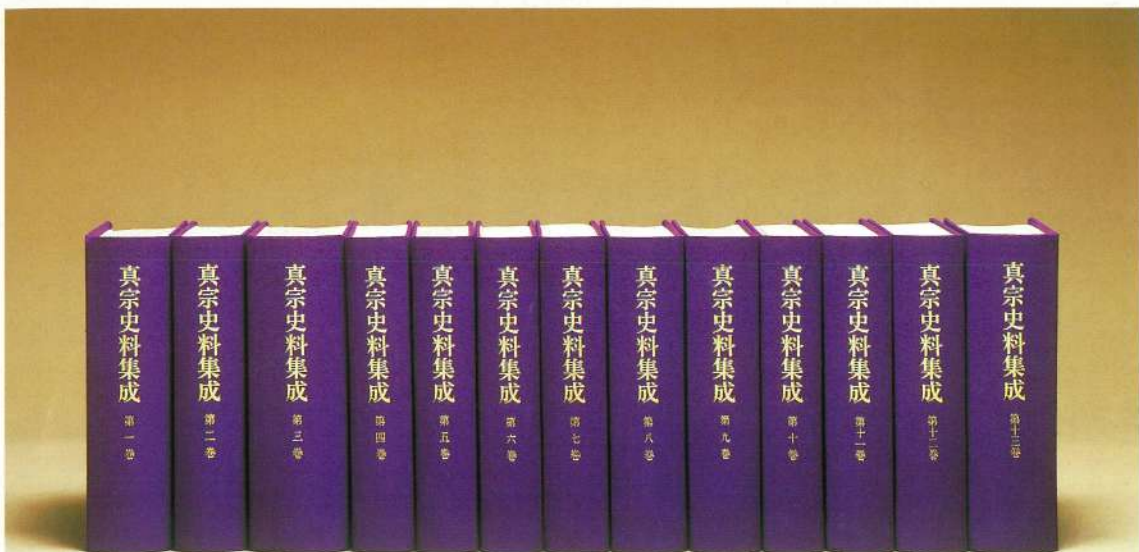


真宗八〇〇年の軌跡を第一級史料で集大成した幻の名著

真のみ教えは、脈々と受け継がれてきた史料の中にこそ有る。
真宗史料集成を手にする慶びは、現代において聖人、諸上人
をはじめ幾多の高僧の法筵に直参するにも似た欣快である！



■仕様・体裁 菊判・上製・特染クロス装・各巻平均1000頁・箱入（分売不可）

定価 **245,000円**（本体） ISBN4-901339-76-1 C3315

昭和四十九年（一九七四）刊行開始された、『真宗史料集成（全十三巻）』は、それまで部分的かつ分散的になっていた中世から近代に及ぶ膨大な史料を厳密に検討・体系化し、気の遠くなるような作業の末、十余年の歳月をかけて完結した未曾有の企画で、各種勉強会をはじめ、寺報、文書伝道に、論文や、資料の作成に最も信頼できる出典・参考文献として幅広く活用され、宗門はじめ研究者や門信徒など、各方面の多くの方々から高い評価を頂いてまいりました。

品切れになって、およそ二十年。現在でも『真宗史料集成（全十三巻）』についてのお問い合わせを頂いており、古書店では高価で売買されております。先般当社が行いましたアンケートでは、復刊に期待する多くのご意見も頂戴いたしました。

同朋舎メディアプランでは、このような現状のなか、名著『真宗史料集成（全十三巻）』を特別再版いたしました。

『親鸞聖人誕生八百年』を期して発願した『真宗史料集成（全十三巻）』が、『親鸞聖人七百五十回遠忌』を控えた現在、皆様のご要望により特別再版というかたちでお届けできることは、小社にとつて望外の幸せであり、仏縁という言葉をあためて囁みしめる次第です。
願わくは、本集成が先人の法恩を敬慕する皆様の座右の書として、永く伝えられる事を念じます。

【真宗史料集成の特色】

- 真宗 800 年の軌跡を顕浄土真実教行証文類（教行信証）・和讃・尊号真像銘文・愚禿鈔・歎異抄はじめ、消息・談義本・教化本・伝記・寺誌・明治、大正期の記録・論説など、400 件を超える第一級の史料で集大成。内容・規模ともに他の追隨を許さない真宗史料集の最高峰です。
- 中世末までの史料はほとんど全てを収載し、近世・近代史料は宗教・文化・政治に関する重要なものを余すところなく収載しました。
- 膨大な量の収載史料も、検索の便を考慮し各巻ごとに標題をつけて体系的に配列。さらに要を得た概説を加えました。全巻を通じると真宗史全体が容易に俯瞰できる画期的な構成です。
- 各史料は厳密に検討した上で、原本・写本・刊本を問わず善本を選定し、書誌学的解題を施しました。
- 中世から近世まで当時の社会状況や民衆の文化・風俗・エネルギーまでも生き生きと伝えます。
- 親鸞聖人、蓮如上人の著述以外は、特に有名ないくらかの史料を除くと、入手困難な状況のなか、聖人を筆頭に真宗を支え育んできた、幾多の高僧、門信徒の実態を忠実に伝える本集成は、真宗各派に帰依する全ての方々の座右の書であり、末永くお伝えいただくに十分な内容です。

『真宗史料集成』の構成

第一巻	親鸞と初期教団 石田充之・千葉乗隆 編	第七巻	伝記・系図 平松令三 編
第二巻	蓮如とその教団 堅田修 編	第八巻	寺誌・遺跡 細川行信 編
第三巻	一向一揆 北西弘 編	第九巻	教団の制度化 千葉乗隆 編
第四巻	専修寺・諸派 平松令三 編	第十巻	法論と庶民教化 柏原祐泉 編
第五巻	談義本 千葉乗隆 編	第十一巻	維新期の真宗 柏原祐泉 編
第六巻	各派門主消息 福岡光超・佐々木孝正 編	第十二巻	真宗教団の近代化 森龍吉 編
		第十三巻	真宗思想の近代化 森龍吉 編

■発行■

株式会社 同朋舎メディアプラン

京都本社
〒604-0862 京都市中京区烏丸通夷川上ル少将井町230吉村ビル
TEL 075-255-4466 FAX 075-255-9813

東京本社
〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-7-12清話舎ビル7F
TEL 03-5216-1161 FAX 03-5276-0837

名著復活!!

真宗八〇〇年の燦然たる行跡を集大成、

他の追隨を許さぬ真宗史料の最高峰!!

真宗史料集成 全十三巻

編集委員

柏原祐泉 千葉乗隆
平松令三 森龍吉

同朋舎メディアプラン

真宗史料集成内容

第1巻 親鸞と初期教団

石田充之・千葉乗隆 編
親鸞の生涯と思想の把握、および初期教団の解明に資する史料を収録する。
すなわち、親鸞の著述と消息ならびにその行実に関するものほとんどすべて、親鸞の書写・編集したもので重要なもの、および門弟の著述で南北朝時代までのものすべてである。また聖教の奥書などでもできる限りの博捜を心掛ける。さらに初期教団の記録・文書の類もあますところなく収録する。

【収載史料】

《親鸞の遺述と消息》 願浄土真実教行証文類（教行信証・和讃・唯信鈔文意・浄土文類聚鈔・尊号真像銘文（広本・墨壳鈔・入出二門偈頌・一念多念文意・如来二種廻向文・弥陀如来名号徳・善導和尚言・真筆消息・古写消息・末燈鈔・親鸞聖人御消息集・略本・御消息集（善性本）・親鸞聖人血脉文集・いや女護状・本尊、影像の讃文
《親鸞の書写編集》 唯信鈔・自力他力事・一念多念分別事・上宮太子御記
《親鸞の行実》 歎異抄・恵信尼書状・親鸞伝絵（康永本・拾遺古徳伝絵詞・歎徳文
《門弟の撰述と行実》 経釈文開書・聞書・執持鈔・口伝鈔・本願鈔・改邪鈔・願願鈔・最要鈔・出世文意・教行信証名義・浄土真要鈔・諸神本懷集・持名鈔・女人往生聞書・破邪顕正鈔・顕名鈔・決智鈔・歩船鈔・報恩記・法華問答・存覚法語・浄土見聞集・纒解記・弁述名体鈔・常樂台主老納一期記・存覚袖日記・慕帰絵・最須敬重絵詞
《初期教団の記録文書》 大谷廟堂創立時代文書・親鸞聖人門侶交名牒・三河念仏相承日記・制禁
《聖教目録》 浄典目録・現存聖教目録・現存聖教目録索引

第2巻 蓮如とその教団

堅田 修 編

真宗の中興とされる蓮如を中心として、その教化の実態、および蓮如以後、実如、証如に至る教団発展を伺いうる史料を収録する。蓮如の教義、教化を知るため『御文』を全通、および蓮如の子弟らの聞書記録類、さらに教団の発展状況を把握しうる各宗主下附の名号、絵像などの裏書もとくに収録する。

御消息類聚（真如、従如、乗如、達如の御消息）・真宗大谷派歴代御消息集（真如、従如、乗如の消息）・東園錦糸録（真如、従如、乗如、達如、厳如、彰如、闍如の消息・粟津家記録（乗如、常如、宣如、達如の御消息） その他
《高田派専修寺関係》 高田御書（五巻） その他
《仏光寺派仏光寺関係》 仏光寺御書（五巻） その他
《興正派興正寺関係》 本寂上人御消息全集・摂信上人動王護法録（摂信上人消息） その他
《誠照寺派誠照寺関係》 誠照寺御書 その他
《その他》

第7巻 伝記・系図

平松令三 編

親鸞聖人の伝記は、中世の談義本、和讃、古浄瑠璃、仮名字子のうちから代表的なものをとりあげ、数多い御伝鈔註疏の中ではなるべく初期の代表的なものを、また編年体親鸞伝として古典的な高田正統伝、これに対する本願寺側の駁論を収載する。歴代人伝は、それぞれ史料の価値の高いものを選定する。系図は、本願寺系図などを除いてほとんどが未公開なので、各派本山をはじめ、重要寺院のものを、できる限り収録する。

【収載史料】

《伝記》 親鸞聖人御因縁・親鸞聖人御因縁秘伝鈔・古浄瑠璃しんらんき・親鸞聖人由来・親鸞聖人正明伝・御伝鈔聞書・本願寺聖人親鸞伝絵私記・善信聖人伝絵鈔（恵雲・絵伝撰要（雷門）・親鸞聖人正統伝・正統伝後集（良空）・非正統伝（玄智）・御伝絵指示記（先啓）・教如上人御伝略抄・教如上人縁起法談・本願寺中興伝・厳如上人御履歴・厳如上人逸事録《系図》 尊卑分脈（内鷹公孫・尊卑分脈（貞嗣親孫・日野氏系図（専修寺本）・日野二流系図（実悟撰）・本願寺系図（大阪本願寺本）・本願寺家系・大谷彌流裏記（神田信入）・下間系図・別格諸寺系図・麻布善福寺本・別格諸寺系図（真本）・専修寺門室系譜・法雲寺古系図・仏光寺法脈相承略系譜・興正寺由来（院家系図略記の内・錦織寺門跡一派血脉系図并錦織寺代歴巨細表記・毫撰寺由緒略歴（藤光雲）・山元派證誠寺伝燈系譜・誠照寺系図・三門徒派専照寺歴代系図・法水分流記（静見）

第8巻 寺誌・遺跡

細川行信 編

寺誌の部には、真宗の通史として江戸時代の宗学風隆期、学匠によってまとめられたものうち、もっとも代表的な『叢林集』と「大谷本願寺通紀」をあげ、前者は

一方、被教化者側記録として『本福寺記録』ほかを、また教団内部を知るために蓮如以下各師の葬中陰記録を併せせる。

【収載史料】

《教化》 正信偈註・正信偈註釈・正信偈註（善性寺本）・正信偈大意（西法寺本）・正信偈大意（法雲寺本） 諸文集・蓮如和歌集・蓮如識語集・蓮如裏書集
《言行》 天正三年記・第八祖御物語空蕩聞書・蓮如上人御物語次第・蓮如上人一語記（実悟日記） 蓮如上人仰条々・蓮如上人御一期・山科御坊并其時代事・本願寺作法之次第・宋玄聞書・蓮如上人御遺言・蓮如上人御往生之奇瑞条々・拾塵記・昔物語記・蓮如上人塵拾鈔
《門徒の記録》 本福寺跡書・本福寺由来記・本福寺門徒記・本福寺明宗跡書・教訓并俗姓・本福寺次第草案・金森日記帳・上宮寺門徒次第之事・赤尾道宗廿一箇条覚書
《史伝》 今古独語・光闡首旨・反古裏書・顕鸞領解之訴状・実如上人闍維中陰録・蓮淨葬送中陰記・蓮能葬中陰記・蓮雲葬中陰記・実賢葬中陰記・実孝葬中陰記・蓮如上人遺徳記・蓮如上人縁起・蓮如尊師行状記

第3巻 一向一揆

北西 弘 編

一向一揆関係の資料を収載する。
昭和五年刊の『石山本願寺日記』上・下巻所収のものを底本とし、それを原本によつて厳密に校合した。加えて、『加州本家領謂付日記』や『御堂卅日番上勤歴配次第』等の重要史料を原本の体裁にのつて新刻した。蓮如、実如、証如、顕如上人の四代の宗主とその教団の、日本史上における最も奇烈な戦いを本願寺側からの視点で綴る史料群である。

【収載史料】

《一》 天文御日記（天文五〜二十三年）
《二》 私心記（天文元〜二十四年、弘治二、三年、永禄二〜四年）
《三》 加州本家領謂付日記、加州所々知行被申越又申付方記之筆御記
《四》 証如上人書札案（天文六〜十、十六、十七、二十三年、証如上人方々へ被遺宛名留）
《五》 顕如上人文案（上・中・下）
《六》 御堂卅日番上勤歴配次第
《七》 御堂年中行事御記
《八》 宇野主水日記（寛森日記、貝塚御座所日記、雑記

第9巻 教団の制度化

千葉乗隆 編

江戸時代の真宗各派における制度・故実・年中行事に関する史料を収録する。
江戸時代は仏教教団が制度化される時代である。幕府の仏教政策にもつて定せられた各宗共通の寺院法度と、各派それぞれに独自の法度も整備される。本巻にはこうした法度をはじめ、真宗各派の故実および年中行事についての史料を網羅し、教団制度化の実態解明に資する。

【収載史料】

《制度》 御本山御代々制案・本願寺律令・本願寺家制・寺法品節・御境内律令・申物諸願取扱方之期・諸事心得之記 御寺法御掟・東本山御寺法要書・寺法御条目定
《故実》 法流故実条々秘録（祐俊・考信録（玄智）・真宗故実伝来鈔、真宗故実伝来追加（淨思・真宗帯佩記（恵琳）・故実公儀書上・安永勘進・東本願寺故実二関スル覚書・諸事記・御堂衆略語（乗貞）
《年中行事》 本山中行事・御堂年中行事・寺内歳時記

第10巻 法論と庶民教化

柏原祐泉 編

近世の真宗では、宗学が発展し、また庶民教化が進展した。
本編では、宗学の発展に伴つて起こった真宗独自の異安心問題や宗学問題、あるいは神道・儒教・キリスト教など一般諸思想との接縁により出てきた融合論、反駁論などに関する諸史料、庶民教化のために数多く出された教化本や民間で流布した説話本などの史料、および民間に潜伏して異常な教化力をもった秘事法門の史料など、未活字本も含めて、代表的なものを収録した。

【収載史料】

《異安心問題》 承応閣權記（祐俊・明和法論次第（仰誓）（学林派）六条惑乱記（写）（三葉惑乱の転写）五巻・秘乱草子（写）（能登頓成事件の記録）一巻

《九》 御味方各寺人別記

第4巻 専修寺・諸派

平松令三 編

親鸞の二十年にわたる関東地方教化は、多くの門弟を生んだ。この巻にはこれらを源流とする高田専修寺、仏光寺、興正寺、錦織寺、越前各山など諸派の史料を収録する。南北朝ころまでの史料は第一巻に収録されるの特に、それ以降のものである。ただし、江戸時代のもものは特に重要と認められるもののみにとどめた。また、収録する史料は、綿密な研究調査によつて未公開のものを多数含む。

【収録史料】

《専修寺関係》 顕正流義鈔（真慧）・正信念仏偈訓説抄（伝、真慧）・十六問答記（真慧・中陰次第（真慧）・愚問賢答記（真智・専修寺歴代御書（真慧・応真・苑恵・苑真・真智）・真慧、応真、真智書状・代々上人聞書・高田ノ上人代々ノ聞書（恵珍述・厚源寺玄祐申状・高田山峯の枝折、恵輪記・如来堂御建立録・本山家規・三席法衣定式・十箇秘事書・高田一流宗義相承記・唯授一人口訣二番問答・専修寺文書・越前法雲寺文書・三河妙源寺文書・岡崎嫡性寺文書・三河西蓮寺文書・越前折立称名寺文書・越前黒目称名寺文書・越前家吉安養院文書・越前大野専福寺文書・伊勢川北久善寺文書・伊勢安濃慈相寺文書・鈴鹿寿福院文書・四日市興正寺文書・四日市正泉寺文書・白塚通夜講中記録・三日市おんない念仏歌・聖徳太子内因曼陀羅聖法輪藏
《仏光寺・興正寺関係》 算頭録（了源）・元応二年山科仏光寺造立勅進帳・一味和合契約状（了源・念仏相承血脉提要書・一向専修念仏名帳・文明十五年仏光寺造立奉加帳・文禄五年仏光寺寺中惣日記・慶長十二年仏光寺御影堂奉加帳・仏光寺御影堂作事之使日記・元和四年仏光寺存海縁起記・元和十年仏光寺寺中法元（経海）・慶安五年仏光寺御影堂目録・仏光寺道場式目・仏光寺派古文書・興正寺顕尊誕生并慶事記・興正派古文書・西坊（長性院）・代々過去帳・光闡院末寺開基改書類・越前府中光善寺記録・絵系図
《越前各派関係》 愚闍記（孤山隠士・愚闍記返札（伝如道撰述）証誠寺申状・誠照寺派御文章古本・越前三門徒法派（衆恩・中野物語・誠照寺縁起・為本記・恵南一代記・山元山路縁起・専伝寺転流願末記・毫撰寺文書・誠照寺関係文書・専照寺関係文書

《宗名論争》 宗名諍論弁（宝泉・宗名往復録（写）・宗名問答集記（文政一三年、写）
《対神道論》 金剛案（潮音・神道俗談弁（誓鑑）・論弁（龍曉）・神国、仏道雪窓夜話（桑梁）・僻難対弁（仰誓）
《対儒教論》 排儒篇（誓鑑・角毛偶語（南溪）五巻・神儒、対論正理論（龍温）文久三年（写）・上宮太子慈母録（宗興）
《対基督教論》 鬼利至端破却論（了意・仏法護国論（月性）護法策進（靈夢）（写）闍邪護法策録（龍温・耶蘇摺斥策（善門）（写）

《秘事法門》 鍵屋内表問答鈔（写）・聖人御袖裏（写）・庫裡法門記・秘事法門裁断記録（仮題）（写）
《動化集》 作業持動鈔（恵空）（宝永三年刊）一巻・真宗行者掟目弁（智狂深広（天明七年刊）・家内教示弁筆記（法海）・掟五常義書弁（徳龍）・動信義談鈔（了意）（宝暦一一年刊）三巻・浄土勸化文通（智洞）（玉唐）一二年刊）三巻
《説話本》 しんらんき・節夜夜平太郎縁起法談（玉唐一三年）（写）・浄瑠璃本平太郎記版行一件（寛文一二年）（写）

第11巻 維新期の真宗

柏原祐泉 編

維新时期における真宗の大きな課題は、旧封建体制から脱却して新体制のなかに再起することであった。そこでまず護法論の質的展開が打ちられ、ついで維新政府が提示した教導方針への対応が打ち出された。このような方向を基本線として、廃仏毀釈との対決、教団近代化の模索、海外進出の開始、キリスト教との対論などが行われ、また近代国家体制下にある信徒の教化を展開した。本巻では以上に関する史料の主要なものを収録した。

【収録史料】

《護法論》 製謗慨譚（龍温）天恩奉戴録、同附録（義導・准水遺詔（南溪・摂信大勳王護法録（抄）
《政教論》 説教十一兼題録評（佐々木祐肇）（明治七年刊）十七題講義（龍温）（写）（明治七年）十七題活用談（某）（写）三条教則批判建白書（黙雷・大教院分離建白書（黙雷）・教導大旨講義（南条神興）（写）明治六年・白樺教部書雜纂（松本白樺）
《教団関係》 宗規綱領（真宗四派）（明治九年刊）・闍院空寛殺害事件（写）明治壬午殉教絵史（田中長嶺（明治四四年刊）（絵入）支那在勤機志岳稿（写）（明治一〇年）朝鮮国布教日誌（奥村円心）（写）（明治一〇〜一三〇年）・松本白樺航海録
《教化類》 庄松ありのままの記（絵入）真宗明治妙好

第5巻 談義本

千葉乗隆 編

真宗の教えは、人々に説教という形式で伝達される。念仏が農民・庶民階層にひろく普及するにいたがい、説教も譬喩の説話に重点をおき、平易に教義の理解をはかる談義本が盛行する。そしてその譬喩には、高僧や篤信者の伝記なども多く取り上げられ、さらには奇瑞などを追善供養をすすめる、真宗の正意から脱脱するものも現れるようになる。本巻では室町時代末までの談義本・教化本及び縁起を収録する。

【収載史料】

教化集（熊野教化集・真宗流情編・随聞書・為説慈心因縁・南無之釈・女人往生集・女人教化集・有恩有善物語・十王讃嘆鈔・直心集・自要集・一念発起抄・正徳末和讃見聞・浄土法門見聞集・無常説記・往生明文鈔・浄土真宗聞書・念仏行者用心事・因果鈔・他力信心聞書・真宗肝要鏡・一心帰西鈔・安心略要鈔・神本地之事・慈巧聖人神子問答・唯信鈔託宣文・四倒八苦・釈典記・三経往生意・六字名号・口伝 他

第6巻 各派門主消息

福岡光超・佐々木孝正 編

周知のように江戸時代の教団は、門主を頂点とした諸制度を確立し、教団の定型化をおすすめるが、その中で御文はもっとも公的な意志表示機関としての役割を果たすようになった。ゆえに御文は江戸時代以降の教団の基本的な動向を知るうえで欠かすことのできない重要史料である。

本巻では主として江戸時代以降に真宗各派の門主が下附した御文を収録する。

【収載史料】

《本派本願寺関係》 歴代御書（八巻本）歴代御書・慈明寺六巻本・歴代御書（二巻本）御歴代御書（二巻本）相承善知識御書・觀専寺三巻本・御消息集本願寺法式局本・御消息集（本願寺参拝部本・准如上人文案・良如上人御書之留・寂如上人御文案・信恵院殿御書・法如上人御消息集（本照寺本二巻）信入院殿御書・文如上人御書・文如上人御消息・信明院殿御書・本如上人御書・広如上人御書・明如上人御消息集 その他
《大谷派本願寺関係》 教如上人御消息集・補遺教如上人御消息集・宣如上人御消息集・補遺教如、宣如両上人御消息集・琢如上人御消息集・常如上人御消息集・一如上人御消息集（以上宗史編修所編）御代々

第11巻 真宗教団の近代化

森 龍吉 編

明治前期から大正末期までの記録、論説のうち、両本願寺教団の組織・運営に関する近代化の提言を集め、とくに清沢満之「教界時言」（抜粋）（第一〜七号）をほじめて網羅した。本巻は真宗史の関心にたつただけでなく、広く近代の政治史にも従来知られなかった関係史料を明らかにする。

【収録史料】

三島了忠「革正秘録 光尊上人血涙記」
北畠道龍「天竺行路次所見・法界断断眞説」
清沢満之「教界時言」（抜粋）（第一〜七号）
大谷光瑞「見真大師」
石川舞台「本願寺宗教論」

第13巻 真宗思想の近代化

森 龍吉 編

明治大正期に提起された「宗教改革」、近代仏教の基礎となった大乗非仏説、ならびに浄土教の再認識を迫った近代的批判的記念的な論説・著作の代表的なものを網羅した。前巻とあいまって、近代における宗教思想史だけでなく、広く文化史、思想においても見逃すことのできぬ諸問題を包括している。

【収載史料】

《仏教近代化論の序幕》 真理金針、仏教活論序論（井上四ノ）・仏教統論（村中重精・二十四年以後の二大教徒（古河勇）
《宗教改革論と社会的実践》 法然と親鸞（木下尚江）・東西の宗教改革（原勝郎）将来の宗教（高島米峰編）・「精神界」の戦争観・足尾銅毒救済記録
《近代教の形成》 懷疑時代に入れり（古河勇）自我量深の教学（宗教の死活問題）他、論文上・浄土真宗（梅原真隆・浄土教批判（野々村直太郎）・彼岸の世界（金子大栄）
《近代の信仰運動》 信仰の余瀝（近角常観）無我愛運動・清沢先生の信仰